

— 静かな夜と空を返せ —

発行日：2021年9月16日

発行者：大沢豊／福本道夫

No.50

横田・基地被害をなくす会 NEWS

原告団 NEWS No.41

合同
発行

連絡先：〒196-0003 東京都昭島市松原町4-10-24-100 青山事務所気付

E-mail：なくす会⇒yokota_nakusukai@yahoo.co.jp 原告団⇒yokota9th@yahoo.co.jp

Web サイト <http://yokota-nakusukai.sakura.ne.jp/>

発行：横田・基地被害をなくす会／第9次横田基地公害訴訟原告団

※ NEWSは「横田・基地被害をなくす会」と「第9次横田基地公害訴訟原告団」の合同発行です。

新たな訴訟を起こします

1976年4月28日、横田基地周辺住民は、基地の騒音を中心とする被害に耐えかねて、日本国政府を被告として、夜間～早朝の飛行禁止と被害に対する損害賠償を求める裁判を起こしました。米軍を対象とする裁判は全国で初めての事例でした。

そして、45年が過ぎました。裁判は繰り返し起こされ、同様の訴訟は全国にも広がりました。

次ページで触れますが、私たち第9次横田基地公害訴訟原告団とその母体である横田・基地被害をなくす会は、賛成多数で成立した「総会議案書の活動方針」にある通り、9月4日に次期訴訟に向けての準備会を立ち上げました。

今後裁判を起こし・維持していくには、多大なエネルギーと体力が必要です。多くの皆さんの協力を呼びかけるものです。

1976年4月28日、横田基地公害訴訟（第1次）提訴。原告数41名。翌年第2次訴訟112名



が提訴し、併合された。地裁・高裁を経て、1993年2月25日最高裁の決定が出た。午後9時～翌朝午前7時までの飛行差し止めは棄却だったが、過去分の（騒音）被害は違法と判断されて提訴3年前から審理の最終日である高裁結審日までの期間を対象として慰謝料を支払え、という内容で確定した。

1994年12月12日、横田基地飛行差し止め訴訟（第1次）提訴。原告数320名。2000



年第2次訴訟39名が提訴し、併合された。地裁・高裁を経て、2009年4月10日最高裁の決定が出た。判決内容は、第1・2次訴訟とほぼ同内容だったが、国の主張する「危険への接近論」（1966年1月以降の基地周辺への居住者は被害を知っていたとする論理。地裁判決では慰謝料の減額が行われた）は排除した。



2012年12月12日、第9次横田基地公害訴訟（第1次）提訴。原告数128名。2014年第2次訴訟16名が提訴し併合。地裁・高裁を経て、2021年1月27日最高裁の決定が出た。判決は従来通り、被害は認めるものの差し止めは退ける内容だった。

上記以外に、新横田基地公害訴訟が1996年～2007年、2012年～2020年の間に起こされている。

次期訴訟を目指して

第9次横田基地公害訴訟原告団
団長 福本 道夫

皆さんには、すでにお知らせしている通り、本年1月27日、最高裁は横田基地の被害救済を求める私たち住民（代表原告）に対し、被害の根源である夜間～早朝の飛行差し止めを認めない、75Wコンター外の住民の被害を認めないなどの内容の決定をしました。

2012年12月提訴の第9次横田基地公害訴訟は、私たちの願いに沿わない結果をもって裁判における活動を終わらざるを得ません。成果は、基地による騒音被害が違法だと認められたことです。

公害事件において、被害が認められているのに現在も存在し続けている被害の原因を除去できない、除去する努力もしないという裁判所の判断は、明らかに間違っています。

現在、私たち第9次横田基地公害訴訟原告団は、役員を中心として、訴訟の総括・まとめに力を注いでいますが、一方、被害が増大しつつある横田基地の状況を踏まえて、最高裁決定内容に対し「私たちの請求実現をあきらめることはできない」として、次期訴訟を起こす方向で検討してきました。

そして、原告団と原告団の母体である横田・基地被害をなくす会の役員で何度も議論を行い、次期訴訟を起こすことを確認し、9月2日に現弁護団に訴訟代理人を依頼、9月4日に次期訴訟準備会の立ち上げを行いました。

次期訴訟に向けては、過去の訴訟の経緯を踏まえて、裁判所に「飛行差止」をどのように認めさせるのか、何十年も変更されない騒音コンターの壁をどのように取り払うのか＝被害者の範囲を広げるにはどうしたらよいのか、同じ横田基地で裁判を進めている新横田基地公害訴訟との連携をどのように行っていくのか、そして、何よりもこの訴訟を担う役員の若返りなどが課題とされています。

また、私たちの訴訟では、提訴した2012年12月12日の3年前＝2009年12月12日から高裁結審2019年9月17日までの被害が認められています（損害賠償の対象期間）が、それ以降の被害は放置されたままです。被害認定期間に空白を生じさせたくないという考え方にたつと、高裁結審日の3年

後2022年9月17日までに提訴すれば、（第9次訴訟の原告になった方については）被害認定期間に空白は生じません。以上のことから、来年9月をリミットとして新たな訴訟に向けて踏み出そうという結論に達しました。

具体的な行動の検討はこれからですが、第9次訴訟の原告だった皆さん、横田基地の被害を感じている皆さんには、新たな訴訟に参加されることを訴えます。

原告申込受付等はこれからになりますが、多くの皆さんの参加を望んでいます。原告数の多さは、被害の深刻さのものさしだとも言えます。

全国基地連加盟の各原告団の原告数を比較すると、普天間基地訴訟は5,347名、新田原基地訴訟は181名、小松基地訴訟は2,227名、厚木基地訴訟は8,878名、今年4月に最高裁決定が出た岩国基地訴訟は654名です。沖縄・嘉手納基地訴訟は次期訴訟準備段階で3万人を超えています。最高裁決定を終えた2つの横田基地訴訟の原告数は合計しても1,221名でした。横田基地の被害地域を考えると、1万人を超える方がこの訴訟に参加することになってもおかしくない地域なのです。

次期訴訟の原告になろうと手を挙げる方は、当面は、別紙「原告団と横田・基地被害をなくす会連絡先」に連絡をしてください。具体的な準備が整った際に、当方から連絡をさせていただきます。



横田基地の状況 (2021年7月～)

※資料は「yokotajoho のブログ」を参照したところが多い。また、協力者の目撃情報による内容も加味されている。

横田基地における人員降下・物資投下訓練

※8月の訓練はなし。

月日・曜日	時刻	訓練内容		高度	備考 (注意書きなしはC-130Jによる)
		人員降下	物資投下		
7/1 (木)	17:49		2	ローパス	2機編隊で各1個・砂袋
7/7 (水)	14:55	12		約2000m	CV-22 オスプレイによる
	15:44	11		約2000m	CV-22 オスプレイによる
7/16 (金)	8:58		1		四角い荷物
	9:17		1		同上
7/29 (木)	17:45		2	ローパス	2機編隊で、各2個の砂袋投下

他基地所属機による横田基地での訓練飛行

月日	時刻	機種	機種用途・所属基地など	タッチ&ゴ-	ローパス
7/1 (木)	16:50, 17:05	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	2	
7/13 (火)	10:41	UH-60L	汎用ヘリ (キャンプ座間・在日米陸軍)		1
7/17 (土)	17:56 ~ 19:07	KC-130J	空中給油機 (在日米海兵隊・岩国基地)	6	
7/19 (月)	10:55 ~ 11:28	C-130H	空自・小松基地	複数回	
	11:00 ~ 11:26	C-1	空自・入間基地	複数回	複数回
7/23 (金)	20:53 ~ 21:31	KC-130J	空中給油機 (在日米海兵隊・岩国基地)	8	
7/30 (土)	13時 ~ 16時	HH-60G	救難ヘリ (在日米空軍・嘉手納基地)	複数回	
	13時 ~ 16時	HH-60G	救難ヘリ (在日米空軍・嘉手納基地)	複数回	
8/1 (日)	18:49 ~ 19:26	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	5	2
8/3 (火)	11:35, 12:00	MH-60R	輸送・救難・特殊作戦ヘリ (米海軍)		2
	12:43 ~ 13:51	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	5	
	14:19 ~ 16:19	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	14	2
8/5 (木)	11:16, 11:33	UC-12F	軽輸送機 (米海軍・厚木基地)	2	
8/6 (金)	19:45 ~ 20:44	KC-130J	空中給油機 (在日米海兵隊・岩国基地)	4	
8/7 (土)	10:20 ~ 12:08	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	7	4
8/16 (月)	10:48	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	1	
	11:05	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)		1
	17:41	UC-12F	軽輸送機 (米海軍・厚木基地)	1	
	18:21	UC-12F	軽輸送機 (米海軍・厚木基地)		1
8/17 (火)	15:44	UC-12W	軽輸送機 (米海兵隊・岩国基地)	1	
8/18 (水)	15:34	UC-12W	軽輸送機 (米海兵隊・岩国基地)		1
8/19 (木)	9:52	U-4	空自輸送機 (入間基地)		
8/26 (木)	10:45	KC-130J	空中給油機 (在日米海兵隊・岩国基地)	1	
	13:01, 13:19	MH-60R	輸送・救難・特殊作戦ヘリ (米海軍)		2
8/27 (金)	10:30頃 ~ 11:19	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	10	
8/28 (土)	10:55 ~ 11:49	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	9	
8/31 (火)	13:46	MH-60R	輸送・救難・特殊作戦ヘリ (米海軍)		1
9/2 (木)	12:54, 13:13・30	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	3	
9/11 (土)	11:06 ~ 12:11	P-8A	対潜哨戒機 (米海軍)	4	2
9/14 (火)	11:44	UC-35A	軽輸送機 (在日米陸軍・キャンプ座間)		1

横田基地 CV-22 オスプレイの訓練状況（7月～）

※データは主に yokotajoho のブログ（羽村平和委員会）+協力者の目撃情報などからまとめた。

※横田基地周辺で行われている訓練。「夜間」は19時以降の飛行で、「**」は22時以降。

※「*」は実施の意味。P 降下=パラシュート降下訓練（欄内数字は降下人数） ※確認できた訓練のみ掲載した。

日付 (曜日)	訪問地	稼働 機数	訓練内容								目撃情報	
			離着陸	夜間	旋回	ローパス	ホバリング	ホイス	射撃	P 降下		
7/1 (木)		3		*	*					*		
7/6 (火)	横浜	1										横浜ノースドック
7/7 (水)		1		*	*			*	*		* 23名	12 + 11名
7/8 (木)		1	*		*			*		*		低空で基地内往復
7/13 (火)		2			*							1機戻らず
7/13 (火)		4										MV-22 ④機着陸
7/14 (水)		4										MV-22 ④機離陸
7/14 (水)		1										7/13 離陸の1機帰投
7/15 (木)		2		*	*					*		
7/16 (金)		2		*	*							1機戻らず
7/19 (月)		2	*	*	*			*	*	*		
7/20 (火)		2	*?	*	*			*?		*		
7/21 (水)		2		**						*		
7/22 (木)		1	*	*	*			*	*	*		
7/23 (金)		1		*	*							
7/24 (土)		1			*							
7/25 (日)		2		*	*							沖縄
7/26 (月)		2		*	*			*	*			
7/27 (火)		2		**								岩国
7/28 (水)		2		*	*							
7/29 (木)		1		*	*			*	*	*		
8/2 (月)		2		*	*					*		
8/3 (火)		1	*	*	*			*		*		
8/4 (水)		2		*	*							沼津・御殿場など
8/5 (木)		2		*	*					*		
8/7 (土)		1			*			*				046 初訓練, 相模湾
8/8 (日)		1			*							046 飛行
8/9 (月)		2			*					*		
8/10 (火)		2		*	*			*				046 飛行
8/16 (月)		2		*	*			*				
8/18 (水)		2		*	*			*		*		046 飛行
8/19 (木)	厚木	3	*	*	*			*				厚木基地
8/20 (金)		2								*		
8/25 (水)	嘉手納	2										嘉手納基地～9/8
8/27 (月)	嘉手納	1										嘉手納基地～9/8
8/31 (水)	岩国・四国	1		**								岩国方面
9/2 (木)		1		**	*			*				神奈川～埼玉県
9/8 (水)	嘉手納	4			*							3機は嘉手納から帰投
9/9 (木)		1	*	*	*			*				低空で旋回
9/13 (月)		2		*								相模湾, 大島
9/14 (火)		2		*								

全国基地爆音訴訟原告団連絡会議情報

◇嘉手納:2022年1月に第4次訴訟を提訴予定(原告数3万人超)。支部の一部の石川地区が新たな原告団準備会を立ち上げる。

◇第三次普天間:2020年12/25第1次提訴。2021年3/25追加提訴。原告合計5,347名。さらに追加提訴準備中。7/29第1回口頭弁論。

◇新田原訴訟:宮崎地裁係属中…2021年6/28地裁判決～控訴。賠償額4000円～,防音工事減額10%～30%,差止棄却。6/27黒木団長逝去で岩元氏が団長就任。

◇岩国:4/13最高裁・上告棄却～次期訴訟検討中。

◇小松:控訴=名古屋高裁金沢支部継続中。7/15現地検証+所在尋問(フライトゼロ)。～今年12/20第1回口頭弁論(結審の可能性も)=2021年度末に判決もありうる。

◇厚木(第5次):横浜地裁係属中。2022年結審目標。

◇厚木爆音防止期成同盟:60周年行事中止。

◇新横田(第2次):6月末に解団し,第3次準備会発足。2022年初めに提訴予定。

全国軍事基地・事故等情報

7/13 在沖米海兵隊CH53大型輸送ヘリ,鉄製コンテナ(高さ・幅:それぞれ約2.4m)

8/12 米軍普天間基地所属MV-22オスプレイ約1.8kgのパネルと部品を落下(被害情報なし)。

8/26 沖縄米海兵隊,発がん性が疑われる有機フッ素化合物PFOSを含む水を処理したうえで普天間飛行場外の下水道に放出したと発表。～9/10宜野湾市,放出開始直後の下水

から高濃度のPFOSが検出された(目標値の13倍超)ことを発表。

9/3 空自,空自那覇基地の消火用水槽から高濃度のPFOSが検出されていたことを発表。

9/4 イギリス海軍の最新鋭空母クイーン・エリザベスが米海軍横須賀基地に寄稿。中国の海洋進出をけん制する目的か。

写真で報告



↑9/11(土)撮影。米海軍所属の対潜哨戒機P-8。海上でソノブイを落としレーダーで索敵する。横田基地常駐機が訓練を行わない土日に来て旋回やタッチ&ゴー,ローパス訓練を行う。迷惑だ。

9/1横田基地のメインゲートである第2ゲート前でのStanding。2018年10月1日がオスプレイの横田基地正式配備発表の日ということで,毎月1日にここでStandingを行っている。実際には,オスプレイは2018年6月23日から居座っているのだが…。今年で3周年ということで,特別な企画を用意しているという話だ。↓



↑8/30知人から「横田基地のフェンスに目隠しがされている」という情報をもらった。基地の西側=国道16号線沿いは,その2分の1以上がコンクリート壁となっているが,南側・東側は網状のネットとなっていた…。それがフェンスの内側に緑色の細かいネットが張られ,目隠しとなっていた。ますます怪しさを増す横田基地の現状だ。



特別寄稿：戦中体験，そして今を憂う

横田基地公害訴訟 団長 福本 龍蔵（故人）

先日、昭島市民図書館を訪れた際に、地域の資料の中に「昭島市遺族会 40周年記念誌」（1989年2月1日発行）があったのを見つけ、手に取ってみた。もしやと思い目次を調べると、福本龍蔵氏（横田基地公害訴訟、横田基地飛行差し止め訴訟原告団の原告団長。2005年逝去。）の寄稿文が掲載されていた。およそ「遺族会記念誌」にはふさわしくない内容だったが、その文章を抜粋して掲載することとした。記念誌に寄稿した文章の見出しは「遺族会の将来に期す」だったが、遺族会関連内容は省略したので、タイトルは（勝手に）代えさせていただいた。この文章が書かれた時期は1988年頃であり、時代錯誤と思われる部分もあるが、ページの穴埋めに使わせていただくことをお許しいただきたい。

古語に「去る者、日に疎し」とある。人間の持つ弱点と真理を言い得て妙である。

戦中戦後の混乱、飢餓貧困の中からよくぞここまで立ち直ったものと思う。主人を戦死させた方、我が子、兄弟を戦死させた方、空襲や戦禍で亡くなられた方もいよう。沖繩戦末期のように守ってくれる筈の日本軍に殺された老人婦女子等例をあげても、何れも戦争のもつ悲惨さ非人間性が浮き彫りにされるだけである。

この文を書いているときペルシャ湾上空で米艦艇の誤射により旅客機が撃墜され乳幼児70人を含む290人の人が死亡したニュースが流れた。5年前にはサハリン上空で領空侵犯の名のもとに旅客機を撃墜している。ソ連スポーツマンは「領空を侵し着陸命令に応じなかった大韓航空機に非がある」と言う。米大統領は交戦状態の中ではかかる事態が起ることはやむを得ぬことと声明している。弱肉強食の動物よりも悪い因習が未だに人間社会に存在しているのか。否、これを認めてはいけない。むしろ米ソの強者の驕りと解釈すべきで、いつの日か正義の鉄槌が下るであろうことを希うのみである。

チャップリンという名優が自作自演した映画に殺人狂時代というものがある。遺産目当てに独身女性を殺した男が死刑の直前に「何故2人殺した俺が死刑になり百人殺した兵士が英雄になるんだ」と叫ぶ場面があった。彼一流のギャグの中に戦争殺人を皮肉ったのであろう。

私の隊に補充兵が10名きた。皆私より歳上でどうみても戦える兵士とは見えなかった。或る極地戦で500メートル程の至近距離で銃撃戦が始まった。その時、飛び交う銃弾の中央あたりに中国人と思われる母子がうずくまっているのが見えた。あろうことか補充兵の一人がその母子の方へ飛びだしていった。辿り着いた彼は、その母子を敵軍の方へ連れていくのである。私は「戻れ」と怒鳴ったが、聞こえなかったのであろう。母子を安全地帯まで連れて行って引き返そうとする彼に銃弾が集中し体がバラバラに飛び散るのがはっきりと見えた。その時である、役に立たぬ弱兵9名が銃剣を構えて明らかに敵陣に突撃を敢行していた。やむなく全兵に突撃命令をだした。一瞬のうちに戦闘は終わった。（敵兵は）累累たる屍を残して逃走したが、その兵が命を捨てて助けた母子は茫然としてそこに怯えていた。ふと補充兵の顔を見ると、そこには昨日の弱弱しい兵の顔はなかった。目は血走り怒りが体中に漲っているのが分かった。憎しみと怒りが彼等を強兵に育てたのである。

このような集団が戦争する軍団、即ち軍隊なのである。個人とは比較出来ないのである。

日清、日露、第一次世界大戦と常勝の軍隊は、今の米ソの如く勝者の驕りの中で軍人はその本分を忘れていた。そして、支那事変、太平洋戦争へと進んでいった。私たちは神国日本を信じ天皇を神として不敗の軍隊を信じて戦ったが、そうした中で天皇も神風も我々の守護神でないことを知った。信頼するものを全て失って終戦を迎えた日本軍、それを銃後で支えた婦女子達に茫然自失の一時はあったが、そんな状態を続けることは許されなかった。生きるために忌むべき過去を忘れ去るために、額に汗して働きに働いた。

今、世は正に天下太平、昭和元禄花見踊りの日日である。衣食満ち足りて礼節を忘れた人が巷に溢れ、（中略）自己中心的になり、弱点を補強するために徒党を組み、更にそれを強化するために政党に媚を売り、次第に「おんぶにだっこ」の状態の中でしか己の生きる道はないと錯角して、折角の民主政治を住民サイドで汚いものにしてしている一面があることは憂うべきことである。かつて「貧乏人は麦を食え」といった首相がいたが、近い将来「無能徒食人間不要論」も論理として通用する社会になり兼ねない。

戦後43年の間に、科学的物理的にあらゆる部門で驚異的な発展を遂げ、特に兵器産業はその極限に達し、情報化社会は次第に人間不要の方向へと限りなく発展していくことであろう。

ある高校三年生で（成績の）トップを走っている娘が「何のために勉強するのか分らない」と私に訴えた。その目に美しく光る涙を見て一瞬返答に窮する。21世紀を担うべき若い子が現状の中で迷いを生じているのである。飛躍するためのステップと思えばよいのであろう。むしろ迷いもせず考えることも忘れ、場当り的に行動する短絡的な人が多いことに憂いをもつのは私だけではないと思う。

私は次男を3歳のとき東京空襲の際亡くしている。関東軍の強兵だった弟も南方へ転戦の途次海中の藻屑と消えた。私自身捕虜生活の後復員したときは弟と共に英霊となっていた。母はよく弟は親孝行だと言って泣いた。おそらく遺族年金が戴けるようになった頃だったと思う。その言葉を聞くと私は心が痛んだ。生きて帰った私が両親に何もしてやれなかった時代であった。その年金が両親の生活の糧になっていたのをあとで知った。（後略）

経過報告と今後の予定 (2021年7月～)

☆☆☆☆☆☆☆☆経過報告☆☆☆☆☆☆☆☆

- * 7/6 全国基地連政府交渉 外務省+防衛省
- * 7/7 全国基地連政府交渉 環境省, 国交省
- * 7/8 オスプレイ1機横田配備反対・緊急 Standing
- * 7/8 吉田敏浩氏 (ジャーナリスト) 基地案内と取材対応
- * 7/9 オスプレイ横田配備反対連絡会
- * 7/9 次期訴訟検討会
- * 7/10 事務所引越し
- * 7/15 オスプレイ東日本連絡会オンライン会議
- * 7/22 次期訴訟問題・新横田原告団と検討会
- * 8/1 横田基地第2ゲート前 Standing
- * 8/5 なくす会+原告団役員会議~次期訴訟検討会④
- * 8/12 全国基地連オンライン事務局長会議
- * 8/22 オスプレイ関連行動⇒コロナのため中止
- * 8/25 全国基地連オンライン役員会議
- * 8/27 オスプレイ横田配備反対連絡会
- * 9/1 横田基地第2ゲート前 Standing
- * 9/2 なくす会+原告団役員会議
- * 9/2 次期訴訟・現弁護団に正式依頼
- * 9/4 次期訴訟準備会発足会議
- * 9/9 次期訴訟問題・新横田原告団と情報交換会
- * 9/16 NEWS印刷~発送準備

☆☆☆☆☆☆☆☆今後の予定☆☆☆☆☆☆☆☆

- * 9/23 オスプレイ反対署名 (昭島駅北口)
- * 9/27 オスプレイ横田配備反対連絡会
- * 10/1 横田基地第2ゲート前 Standing 3周年記念
- * 10/2 三多摩反核平和の火リレー 挨拶
- * 10/7 なくす会+原告団役員会議
- * 10/21 10.21集会 (三多摩平和運動センター主催)
- * 10/23 横田基地もいらない…集会 (福生市民会館)

- * 11/1 横田基地第2ゲート前 Standing
- * 11/4 なくす会+原告団役員会議
- * 12/1 横田基地第2ゲート前 Standing
- * 12/1 東京平和運動センターへ要請
- * 12/2 なくす会+原告団役員会議

◇◇◇基地の状況など (確認できたもののみ) ◇◇◇

▶ CV-22 オスプレイ…4 ページ参照

▶ パラシュート訓練…3 ページ参照

▶ 他基地所属機の訓練…3 ページ参照

【訓練の情報提供 (北関東防衛局から)】

- * 7/2 午後8時30分から20分程度滑走路付近で打ち上げ花火実施 (米国独立記念日祝賀行事)
- * 7/5 ~ 7/9 うち2日間にC-130による人員降下訓練の実施 (約70名)
- * 7/13 MV-22 オスプレイが横田基地に飛来
- * 7/13 A-10 (戦闘攻撃機) が10機横田に飛来
- * 7/20 7/6に横田基地に飛来したCV-22 オスプレイは追加配備の1機だったことを通知
- * 7/22 横田基地配備の第374空輸航空団が1名の要人を迎えるための支援を行う
- * 7/29 ~ 8/3 陸自と米陸軍が横田基地から米空軍機に搭乗し、グアム島で空挺降下訓練を実施
- * 8/5 サムライ即応監査の実施 (航空機の使用はない予定。大音量を発する訓練を含む)
- * 8/26 6/14のCV-22 オスプレイの山形空港への予防着陸の原因 (深刻なものではない) の通知
- * 9/2 ~ 9/9 四国沖及び関東東方の太平洋上の空域並びに横田基地で、日英米蘭加の共同訓練実施 (要撃戦闘訓練, 戦術攻撃訓練)

「うるさい!」と思ったら…

各自治体には、苦情としてお伝えください。件数が記録されます。

抗議先一覧

横田基地：042-552-2511
 航空自衛隊横田基地：042-553-6611
 防衛省北関東防衛局：048-600-1800
 防衛省横田防衛事務所：042-551-0319
 外務省：03-3580-3311
 東京都庁：03-5321-1111
 瑞穂町役場：042-557-0501
 羽村市役所：042-555-1111
 福生市役所：042-551-1511

昭島市役所：042-544-5111
 立川市役所：042-523-2111
 武蔵村山市役所：042-565-1111
 日野市役所：042-585-1111
 八王子市役所：042-626-3111
 あきる野市役所：042-558-1111
 青梅市役所：0428-22-1111
 入間市役所：04-2964-1111
 飯能市役所：042-973-2111

諸行動のお知らせ

【オスプレイ関連行動】

◇毎月1日午前11時～の横田基地第2ゲート前
Standing 10月1日, 11月1日, 12月1日, …

◇9月23日(木・祝)13時30分～14時30分
注) 反対署名と宣伝行動＝コロナ感染状況に関
わらず、宣伝行動は実施します。

NEWS内容 (目次 = CONTENTS)

新たな訴訟を起こします……………	1	全国基地連情報, 全国の基地での事故等, 写真で報告……………	5
次期訴訟を目指して……………	2	特別寄稿: 戦中体験, そして今を憂う……………	6
横田基地の状況 (2021年7月～)		経過報告と今後の予定, うるさいと思ったら……………	7
人員降下・物資投下訓練, 他基地所属機の訓練……………	3	諸行動のお知らせ……………	8
CV-22 オスプレイの訓練状況……………	4	目次, 天欄……………	8

天欄

アフガニスタンから米軍が撤退しました。2001年, ニューヨーク摩天楼とベンタゴンを襲った同時多発テロから20年。あの夜, 仕事帰りにふとスイッチを入れた職場のTV画面。ニューヨークの摩天楼から飛び下りる人々, 崩れ落ちるピルの映像に同僚と二人釘付けになったのを思い出します。今回は, 自宅のTVで, 緊急発進する軍用機にギッシリと座る人々, 翼にしがみつき振り落とされる人々の映像に見入り, 「対テロ戦争はこのように終わるのか!」と感無量でした。バイデン大統領の「アフガン撤退」の決断は正しいと思います。対テロ戦争は, アフガンに平和をもたらすことができなかったのです。

新聞記事によれば, 同時多発テロが起こったとき9歳だった少年ザッカーリーは現在29歳。高校卒業後18歳で米軍に入隊し, アフガニスタンに派遣。すでに銃撃戦の時代は過ぎて, 戦争は無敵攻撃機の時代に入っていました。カメラに映る灰色の背景。その中に体温のあるものが白く, 黒く浮かび上がり, 砲弾があたると絵の具のように飛び散り, やがて灰色になり, 背景に溶け込んでいきます。「耐えられると思っていたけれど無理だった。」ザッカーリーは9ヵ月で除隊。酒に溺れ, PTSD診断を受け, 信頼できる医師に救われました。同時多発テロ後の戦争で, 米軍死者は7千人を超え, 自殺者はその4倍以上の3万人を超えます。戦争は本国アメリカ社会に帰り, 社会を蝕んでいるのです。それはベトナム戦争以来ずっと続いている現代アメリカの悲劇です。

これは対岸の火ではありません。TV画面に見入りながら, 私は「戦争が近づいてくる」という予感に震えました。アメリカ軍の中東からの撤退は, すべての海外基地からの撤退を意味してはいません。

むしろアジアでの米軍基地強化につながると思うのです。かつて遠い中東の戦場にむけて横田から発進した米軍機が, 近くなった戦場—東南アジアや中国・朝鮮にむけて発進していく時が来ないとは限らないのです。アフガンからの米軍の撤退は世界からの撤退を意味しない—この認識を共有する必要があります, と感じます。

来る10月1日, 月の第一日恒例の「横田基地正面ゲートでのスタンディング」が3周年を迎えます。9月のスタンディングは雨の中, 12名でやりました。3周年にはぜひ20名位は集まりたいものです。あなたも, 10月1日11時, 横田基地正門前へ!

第○次横田基地訴訟の準備がはじまりました。横田基地の被害を実感し, 基地撤去を願う仲間から, 広く原告になる方を募集する予定です。連絡をお待ちします。(K)

9/13 昭島市の基地対策特別委員会を傍聴した。「昭島市が日米合意の検証・調査を実施し, その結果を踏まえて, 政府交渉に臨んでほしい。」という内容の請願の審議だった。これは, 昭島市など5市1町が政府に対し, 日米合意の遵守を申し入れているにも関わらず何の進展もしていないことから出された請願だった。これに対し自民党や公明党, 立憲民主党議員は, 昭島市が騒音測定点を1箇所増設したことが日米合意の検証・調査に当たるとして請願を認めず, 反対多数で請願は退けられた。約1年前に予算がないとして測定点の増設に反対した彼らが何故この増設を隠れ蓑とするのか。そして, この増設によって「飛行高度」「人口稠密地域での飛行」「22時以降の飛行」「オスプレイのモード変換」等の日米合意が検証できないことは明らかなのにも関わらずだ。理由のない言い訳がまかり通る国会の縮図を見た。(M)